

# 日興・アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド 〈愛称 ネクスト・スター〉

追加型投信／海外／資産複合

## 交付運用報告書

第50期(決算日2019年9月17日)

第51期(決算日2019年12月17日)

作成対象期間(2019年6月18日～2019年12月17日)

第51期末(2019年12月17日)	
基準価額	10,391円
純資産総額	3,214百万円
第50期～第51期	
騰落率	2.8%
分配金(税込み)合計	60円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興・アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド」は、2019年12月17日に第51期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、新興国の様々な資産に投資を行なう投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

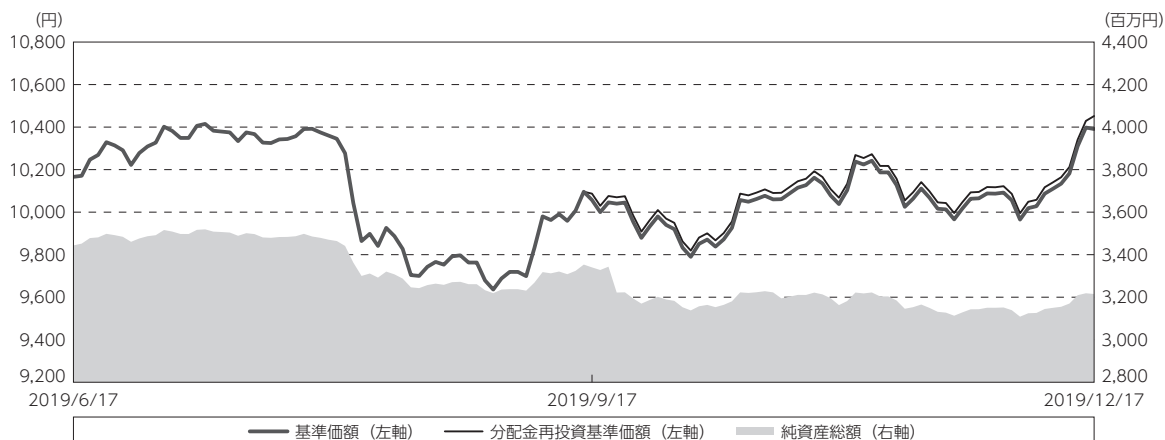
コールセンター 電話番号：0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

(2019年6月18日～2019年12月17日)



第50期首：10,166円

第51期末：10,391円 (既払分配金(税込み)：60円)

騰落率：2.8% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2019年6月17日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、新興国の様々な資産に投資を行なう投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## &lt;値上がり要因&gt;

- ・投資有価証券から分配金・利息収入を得たこと。
- ・新興国株式・債券・為替が上昇したこと。
- ・米国金利が低下したこと。
- ・円安/米ドル高が進行したこと。

## 1万口当たりの費用明細

(2019年6月18日～2019年12月17日)

項 目	第50期～第51期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	53	0.522	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(16)	(0.154)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	(35)	(0.352)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
( 受 託 会 社 )	( 2 )	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.021	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 0 )	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( 印 刷 費 用 )	( 2 )	(0.019)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
( そ の 他 )	( 0 )	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	55	0.543	
作成期間の平均基準価額は、10,083円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

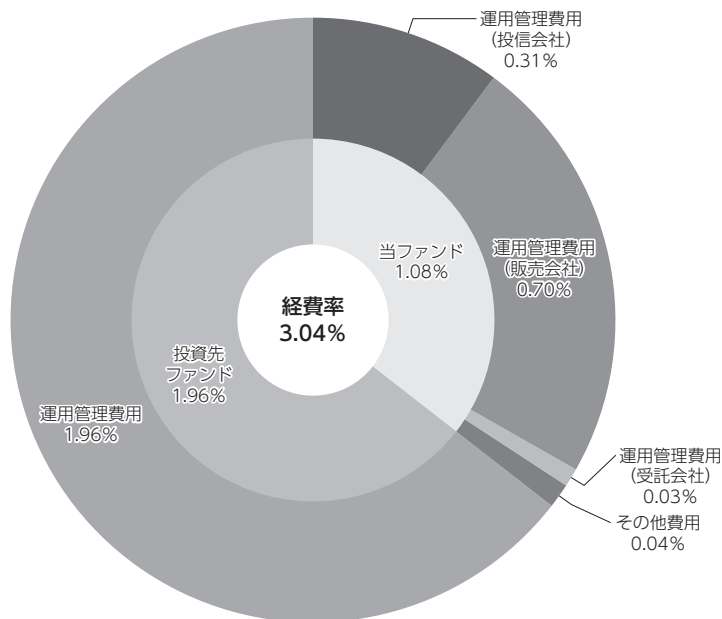
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

## (参考情報)

## ○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は3.04%です。



(単位: %)

経費率 (①+②)	3.04
①当ファンドの費用の比率	1.08
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1.96

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2014年12月17日～2019年12月17日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2014年12月17日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2014年12月17日 決算日	2015年12月17日 決算日	2016年12月19日 決算日	2017年12月18日 決算日	2018年12月17日 決算日	2019年12月17日 決算日
基準価額 (円)	10,145	10,155	10,382	10,799	10,024	10,391
期間分配金合計(税込み) (円)	—	120	120	120	120	120
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	1.2	3.5	5.2	△ 6.1	4.9
純資産総額 (百万円)	6,798	5,442	4,902	4,247	3,576	3,214

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

**投資環境**

(2019年6月18日～2019年12月17日)

**(新興国株式市況)**

新興国株式は上昇しました。期間の初めから2019年7月にかけては概ね横ばいで推移したものの、その後、米国連邦準備制度理事会（F R B）議長の発言から米国の継続的な利下げ実施への期待が後退したことや、米国大統領による対中追加関税「第4弾」の発表を契機に米中貿易摩擦が一段と激化したこと、中国やドイツの経済指標の悪化を受けて世界的な景気後退が懸念されたことなどから、各国の株価は総じて下落しました。大統領予備選挙で野党候補が市場経済を重視する現職大統領に勝利したことによるアルゼンチンの政治的な混迷などを受けて、投資家のリスク回避姿勢が高まったことも、株価の下落要因となりました。

期間中、米国と中国による貿易問題を巡る閣僚級協議の開催発表や、中国による米国製品の一部についての制裁関税の免除などから、米中貿易交渉の進展への期待が高まったことや、一部の新興国での政策金利の引き下げ、香港の政情不安の後退などが好感され、新興国の株価は概して上昇しました。

期間末にかけて、中国政府による関税撤廃合意の発表に同意していないとする米国大統領の発言や、米国議会での「香港人権・民主主義法案」の可決などを受けて、米中貿易協議の合意への不透明感が高まったことや、中国の経済指標が市場予想を下回り景気の先行きが懸念されたこと、香港での抗議活動の激化や、コロンビアやチリでの反政府デモなど中南米諸国の政治情勢の混迷などでリスク回避姿勢が強まったことなどから、新興国の株価は一時下落しましたが、発動済みの追加関税の段階的な撤廃の方針で米中合意との中国政府の発表などを受けた、米中貿易協議の進展に向けた期待の高まりや、市場予想を上回る米国の経済指標を受けた欧米株式市場の上昇などを背景に、新興国の株価は総じて上昇しました。

**(新興国債券市況)**

新興国債券市場は上昇しました。スプレッド（利回り格差）の縮小、米国金利の低下、およびキャリーが全てプラスに寄与し、外貨建新興国債券は期間を通じてほぼ右肩上がりの上昇と好調でした。国別ではトルコ、ブラジルなどが上昇した一方、アルゼンチンは大きく下落しました。

**(国内短期金利市況)**

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの $-0.07\%$ 近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、 $-0.06\%$ 近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（T B）3ヵ月物金利は、期間の初めの $-0.14\%$ 近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、 $-0.16\%$ 近辺で期間末を迎えました。

**(為替市況)**

新興国通貨はまちまちの結果となりました。期間の初めは米国や欧州における利下げ期待の高まりから先進国の長期金利が低下し、新興国への投資資金の流入期待が高まったことなどから、新興国通貨は概して上昇しました。期間中は米国大統領による対中国追加関税発動の表明や、英国の「合意なき欧州連合（E U）離脱」懸念などを背景にリスク回避の円買い需要が強まったことや、新興国の景気低迷が懸念されたことなどから、新興国通貨は総じて下落しました。原油価格の下落も、産油国通貨の重しとなりました。大統領予備選挙で野党候補が市場経済を重視する現職大統領に勝利したことで、政権交代

による財政規律の緩みなどが警戒され、資金流出懸念が高まったアルゼンチンペソなどが大きく下落しました。期間末にかけて、中国政府が、発動済みの追加関税を段階的に撤廃することで米国と合意したと発表するなど、米中貿易協議の進展期待が高まったことや、国内総生産（GDP）成長率など一部の新興国の経済指標が市場予想を上回ったことなどが、新興国通貨の上昇要因となった一方、一部の新興国の経常収支が市場予想以上に悪化したことや、香港情勢や一部の中南米諸国での反政府デモの激化などを背景にリスク回避の円買い需要が強まったことなどが下落要因となり、新興国通貨はまちまちの動きとなりました。国別ではアジア通貨が概ね上昇した一方、アルゼンチン、チリ、ブラジルなどが不振でした。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2019年6月18日～2019年12月17日)

### (当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB」投資証券を高位に組み入れ、「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

### (アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB)

新興国市場の債券、株式を中心とした幅広い投資テーマの資産を投資対象とし、各投資テーマへの資産配分を積極的に行ない、様々な投資機会を活用しました。

米ドル建て新興国債券を中心としたポートフォリオ構成を維持しました。資産別の配分では、外貨建新興国債券の組入比率を減らす一方、株式の組入比率を増やしました。

期間中、スペシャル・シチュエーションの組入れはありませんでした。

### (マネー・オープン・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

(2019年6月18日～2019年12月17日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

**分配金**

(2019年6月18日～2019年12月17日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

**○分配原資の内訳**

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第50期	第51期
	2019年6月18日～ 2019年9月17日	2019年9月18日～ 2019年12月17日
当期分配金	30	30
(対基準価額比率)	0.297%	0.288%
当期の収益	2	28
当期の収益以外	27	1
翌期繰越分配対象額	838	840

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。



## 今後の運用方針

### (当ファンド)

引き続き、「アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB」投資証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

### (アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB)

世界経済が回復の変わり目になっているかどうかを見極めるのは時期尚早ですが、第1に、経済活動は緩慢であり、銀行部門の流動性とレバレッジ・ポジションは拡大していません。第2に、政策の余地が拡大しています。とりわけ米国では、FRBがドライパウダー(待機資金)をある程度保有しています。第3に、新興国経済の低迷による経済・金融市場への影響は比較的緩やかで、インフレ率の大幅な低下と名目金利の低下が相まって、ほとんどの国で世界的な景気減速に対する円滑な調整が可能である、という3つの重要な要素から信頼感を得ることができます。次段階に移行するため、金融・財政刺激策が発動されており、これにより、経済的事故のリスクが軽減され、魅力的な価格の新興国債券への大規模な資産配分の恩恵を享受し続けることができるようになります。

新興国市場に対するポジティブな見方を維持します。新興国市場における「米ドル建て債券」、「現地通貨建て債券」、「株式」といった一般的な運用戦略を重視する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

### (マネー・オープン・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

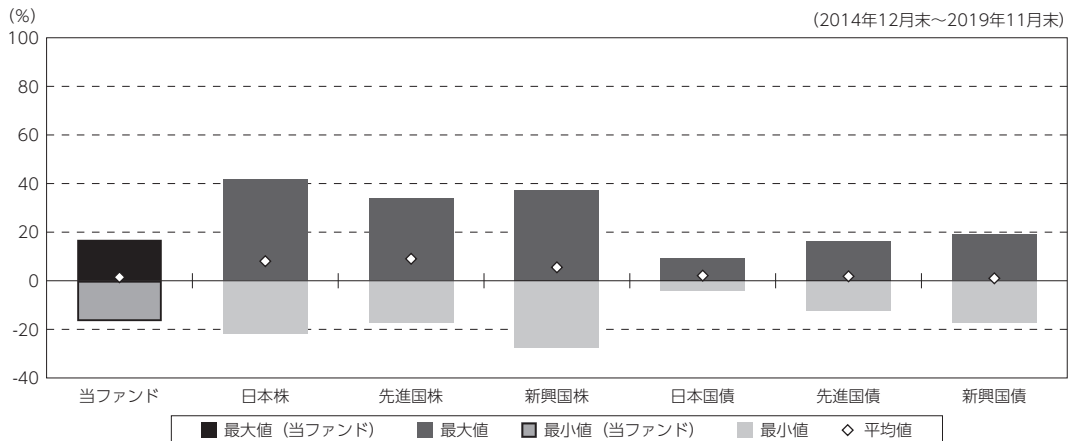
2019年6月18日から2019年12月17日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合
信託期間	2007年4月27日から2022年6月17日までです。
運用方針	主として投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）に分散投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッドクラスB」投資証券 「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、新興国の様々な資産に投資を行なう投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざします。新興国市場における「米ドル建て債券」、「現地通貨建て債券」、「株式」といった一般的な運用戦略に加え、信用度の改善に着目した「スペシャル・シチュエーション」など複数の戦略（マルチストラテジー）を活用します。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	16.9	41.9	34.1	37.2	9.3	16.4	19.3
最小値	△ 16.6	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	1.4	8.1	9.0	5.5	2.1	1.8	1.0

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年12月から2019年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2019年12月17日現在)

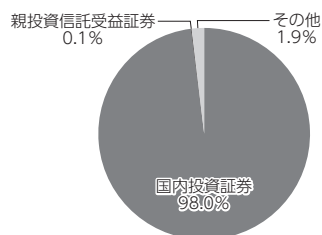
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第51期末
	%
アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッドクラスB	98.0
マネー・オープン・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

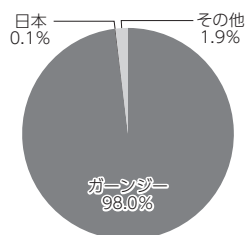
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

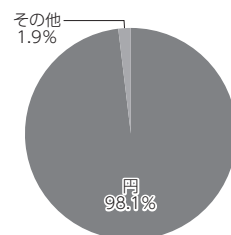
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資証券には外国籍(邦貨建)の投資証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

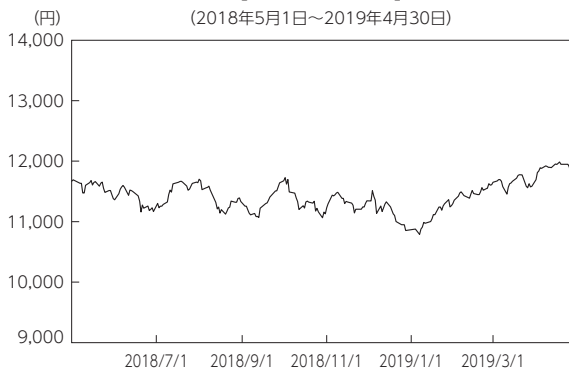
項目	第50期末	第51期末
	2019年9月17日	2019年12月17日
純資産総額	3,340,165,092円	3,214,997,862円
受益権総口数	3,321,383,591口	3,094,087,758口
1万口当たり基準価額	10,057円	10,391円

(注) 当作成期間(第50期~第51期)中における追加設定元本額は14,193,107円、同解約元本額は307,542,616円です。

## 組入上位ファンドの概要

### アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB

#### 【基準価額の推移】



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

#### 【1万口当たりの費用明細】

(2018年5月1日～2019年4月30日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

#### 【組入上位10銘柄】

(2019年4月30日現在)

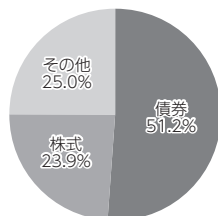
銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率
1 Tencent Holdings Ltd	株式	香港ドル	中国	2.4%
2 DTEK Finance plc 10.75% PIK	債券	アメリカドル	ウクライナ	2.2%
3 Alibaba Group Holding Ltd ADR	株式	アメリカドル	中国	1.3%
4 HDFC Bank Ltd ADR	株式	アメリカドル	インド	1.3%
5 Taiwan Semiconductor Manufacturing Co Ltd ADR	株式	アメリカドル	台湾	1.3%
6 Lojas Renner SA	株式	ブラジルレアル	ブラジル	1.1%
7 AIA Group Ltd	株式	香港ドル	香港	1.0%
8 Petroleo Brasileiro SA ADR - Pref	株式	アメリカドル	ブラジル	1.0%
9 YPF SA 8.5%	債券	アメリカドル	アルゼンチン	0.9%
10 Vale Overseas Ltd 6.875%	債券	アメリカドル	ブラジル	0.9%
組入銘柄数		169銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

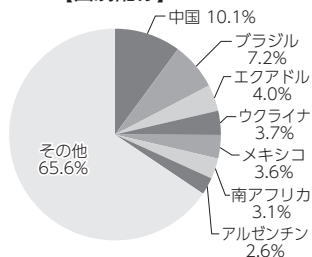
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

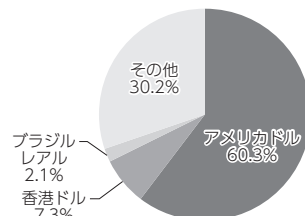
#### 【資産別配分】



#### 【国別配分】



#### 【通貨別配分】



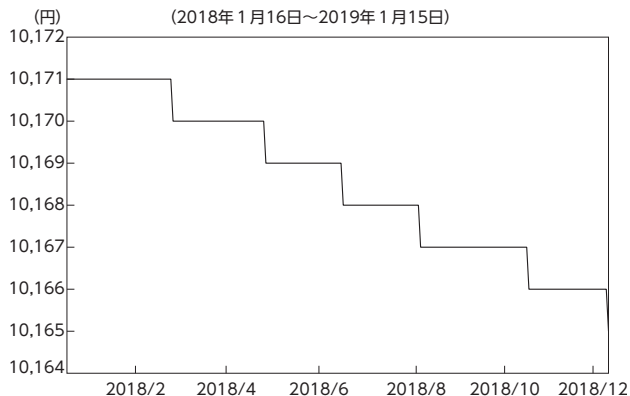
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・オープン・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2018年1月16日～2019年1月15日)



【1万口当たりの費用明細】

(2018年1月16日～2019年1月15日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 の 費 用 (そ の 他)	円 1 (1)	% 0.009 (0.009)
合 計	1	0.009

期中の平均基準価額は、10,168円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2019年1月15日現在)

2019年1月15日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。